

ドイツのアビトゥア試験ドイツ語科目の問題分析 —日本語のアカデミック・ライティングへの示唆—

脇田里子・鎌田美千子

要旨

母国での第一言語教育の経験は、日本で学ぶ日本語学習者の文章学習観に大きな影響を及ぼすと考えられる。そして、日本と各国の教育的接続の重要性も認識されている。本報告では、ドイツの中等教育機関のアビトゥア試験（卒業試験兼一般大学入学資格試験）のドイツ語科目の問題分析を通じて、日本語のアカデミック・ライティングへの示唆を示すことを目的とする。本稿では、2020年にノルトライン・ヴェストファーレン州で実施されたドイツ語基礎コースの論述試験の問題を分析した。その結果、試験問題の文章を「分析」や「比較」し、根拠を示しながら、長編の「評論」を書くことが期待されていることが分かった。日本語教員は留学生の母国での第一言語教育の概要を知った上で、留学生が来日後、第二言語として日本語のコンピテンスを修得する上で、教育的接続の重要性を認識する必要がある。

キーワード

アビトゥア試験、第一言語教育、ドイツ語教育、日本語教育、ライティング教育

1. はじめに

日本で学ぶ日本語学習者の文章学習観は、第一言語教育の経験に大きな影響を受けていると考えられる。さらに、日本と各国の教育的接続の重要性も認識されている。本研究では、ドイツの中等教育機関のアビトゥア試験（卒業試験兼一般大学入学資格試験）のドイツ語科目の問題分析を通じて、ドイツにおける第一言語能力を測る試験を知り、日本語のアカデミック・ライティングへの示唆を得ることを目的とする⁽¹⁾。

2. ドイツの教育制度とアビトゥア試験

ドイツの中等教育は、生徒の能力・適性に応じて、四つの教育機関から構成される（文部科学省 2016）。1. ハウプトシューレ（5年制で、卒業後は就職して職業訓練を受ける）、2. 実技学校（6年制で、卒業後は主に就職教育学校に進む）、3. ギムナジウム（8年制または9年制で、卒業後は主に大学に進学する）、4. 統合制学校（学校数、生徒数ともに少なく、上記1.～3.の学校のどの要素ももつ）である。本報告では、ドイツの中等教育機関の中で、高等教育に進学する生徒の多いギムナジウムの後期中等教育段階（第10～12学年または第11～13学年）の修了時に課されるアビトゥア試験（Abitur: 一般大学入学資格試験を兼ねる）に着目する。アビトゥア試験に着目した理由は、この試験はギムナジウムの卒業試験であるため、中等教育の内容を総括するアウトプットの一つの指標となり得ると考えるためである。

連邦制のドイツでは各州がそれぞれ独自に教育課程基準を定めている。しかし、各州の

状況を比較し、教育の質を保証するため、各学校の教育段階修了学年の主要科目については、各州文部科学大臣会議が策定した全国共通の教育スタンダードが設定されている（文部科学省 2016）。ドイツ人の第一言語であるドイツ語は主要科目の一つとして、教育スタンダードが適用されている。つまり、ドイツ語のアビトゥア試験は、全国共通の教育スタンダードが適用された州ごとの統一試験である。なお、ギムナジウムの後期中等教育段階の生徒は、受験科目（州により 4 科目または 5 科目）とコース（重点コースか、基礎コース）を選択し、それらに応じた授業を受けている。そのため、生徒全員がドイツ語科目を受けるものではない。

ドイツにある 16 の州の中で、本報告ではノルトライン・ヴェストファーレン州（以下、NRW 州）のアビトゥア試験について述べる。NRW 州はドイツの北西部に位置し、ドイツの全人口、約 8300 万人の約 20%を占めるほど人口が多い。かつてはルール工業地帯として名を馳せ、現在も国内総生産の 4 分の 1 を生産し、化学産業やハイテク産業が盛んな州である（ドイツ連邦共和国大使館・総領事館ウェブサイト参照）。また、筆者の一人が NRW 州のギムナジウムでドイツ語教育の予備調査を行ったことがあるため（脇田 2021）、NRW 州のアビトゥア試験を分析対象にする。

3. 分析対象

STARK (2020) は、NRW 州にあるギムナジウムで開設されているドイツ語基礎コースのアビトゥア試験に対する過去試験問題集である。毎年刊行されており、STARK (2020) は、2021 年に受験する者を対象にした、いわゆる日本の「赤本」に相当する書籍である。この過去試験問題集には、①2021 年の試験に関する情報や注意事項、②過去試験問題（2016 年「問題 3」、2017 年「問題 1」、2018 年「問題 1、問題 2」、2019 年「問題 1、問題 2、問題 3」、2020 年「問題 1、問題 2、問題 3」）、③各試験問題に解答するためのヒント、④解答例、⑤模擬問題（7 種類）が収録されている。本報告では、(1) 2021 年の試験に関する情報や注意事項、(2) 過去試験問題 2020 年「問題 3」、(3) (2) を解答するためのヒント、(4) (2) の解答例の二つを対象にする。そして、ドイツ語から日本語に翻訳した上で、これらの二つについて内容を分析し、検討する。

4. NRW 州のドイツ語基礎コースのアビトゥア試験

本章は STARK (2020) に書かれている NRW 州のドイツ語基礎コースのアビトゥア試験問題の概要を翻訳し、説明する。ドイツ語基礎コースの試験時間は 5 時間で、論述試験（4 時間）と口述試験（1 時間）から成る。なお、受験者は同じ論述問題を解くのではなく、「問題 1」「問題 2」「問題 3」の三つの問題の中から一つの問題を選んで解く。論述試験の 4 時間には、受験者が試験開始後、「問題 1」「問題 2」「問題 3」の三つの問題に目を通し、一つの問題を選択する 30 分が含まれる。

4.1 ドイツ語基礎コースの論述試験の種類と試験概要

表 1 はドイツ語基礎コースの論述試験問題の種類を示したものである。問題の種類は大きく I～IV の 4 種類に分けられる。そして、I～III はさらに 2 種類に分けられ、全部で 7 種類の試験が見られる。I は「文学作品（ドイツ語で“Literarischer Text”）の分析」

または「文学作品の比較分析」、Ⅱは「事実に関する文章（ドイツ語で“Sachtext”）の分析」または「事実に関する文章の比較分析」、Ⅲは「事実に関する文章の議論」または「文学作品を参考にした事実に関する文章の議論」、Ⅳは「専門科目別のテーマ」を対象にしている。表2は、2019年と2020年の論述試験の種類と問題文の出典について示したものである。2019年と2020年は、Ia、Ib、Ⅱaの文学作品または事実に関する文章の分析や比較分析が求められていることがわかる。

表1 ドイツ語基礎コース 論述試験の種類

I a	文学作品の分析（+ライティング課題）
I b	文学作品の比較分析
Ⅱ a	事実に関する文章の分析（+ライティング課題）
Ⅱ b	事実に関する文章の比較分析
Ⅲ a	事実に関する文章の議論
Ⅲ b	文学作品を参考にした事実に関する文章の議論
Ⅳ	専門科目別のテーマ

(STARK2020 日本語訳は脇田)

表2 2019年及び2020年の論述試験問題の概要

	問題の種類	問題文（抜粋）の出典
2019年 問題1	Ⅱ a 事実に関する文章の分析と ライティング課題	・ロナルド・ケールブランド (2016) 『ログブックドイツ語：どのように話すか、どのように書くか』 [学術論文]
2019年 問題2	I b 文学作品の比較分析と ライティング課題	・エーデン・フォン・ホルバート (2017) 「小さな恋の物語」 『全作品集』 [物語] ・ユードイト・ヘルマン(1998) 『夏の家、その後』 [小説] (課題図書、試験場で閲覧可)
2019年 問題3	Ⅱ a 事実に関する文章の分析と ライティング課題	・ヨッヘン・シュミット (2011) 『ゲーテ ファウスト 第一部・第2部』 [評論]
2020年 問題1	Ⅱ a 事実に関する文章の分析と ライティング課題	・カール・ハインツ・ゲッタールト (2011) 『標準ドイツ語以外のすべて：私たちの方言を探ってみよう』 [学術論文]
2020年 問題2	I b 文学作品の比較分析	・ニコラウス・レナウ(1959) 「帰郷の思いの変化」 『全詩集』 [詩] ・ヒルデ・ドミン(1987) 「通り過ぎる景色を描く」 『詩集』 [詩]
2020年 問題3	I a 文学作品の分析と ライティング課題	・アルノ・ガイガー (2018) 『元気です』 [小説] ・ユードイト・ヘルマン(1998) 『夏の家、その後』 [小説] (課題図書、試験場で閲覧可)

「問題文（抜粋）の出典」 [] の文章ジャンルは脇田による付記 (STARK2020 日本語訳は脇田)

4.2 「I a 文学作品の分析」の解き方

STARK (2020) によると、「I a 文学作品の分析」の＜文学作品の解答作成に役立つ問い＞として、次の五つが挙げられている。1. 本文はどの時代に書かれたものか、どのような文章か、2. 作者は誰か、本文のテーマは何か、3. 内容面（表3）、4. 形式面（表4）、5. テキストの解釈（①文章を読んだ第三者の注釈などの記述があるか、②あなた自身はこの文章にどのように反応するか）である。

表3 文学作品の種類ごとの「内容面」に関する問い

叙事的文章 (物語、小説)	演劇的文章 (戯曲)	叙情的文章 (詩)
<ul style="list-style-type: none"> ・どの人物が関わっているか。 ・どのような特徴があるか。 ・それぞれがどのように関係しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの人物が関わっているか。 ・どのような特徴があるか。 ・それぞれがどのように関係しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の中に人間は出てくるか。 ・詩の中に「私」は登場するのか。 ・その詩は誰に宛てたものか。
<ul style="list-style-type: none"> ・本文 (全体、一部) はどのように始まるのか。導入部があるか、それとも突然始まるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの状況をどのように表現できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の中に特徴的なモチーフはあるか。どんな雰囲気が伝わってくるか。
<ul style="list-style-type: none"> ・何が語られているか。(例：出来事か、内面の過程か、会話か。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば、より正確に会話の流れを把握できるか。その会話の背景には、登場人物のどのような意図があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩のテーマは何か。(例：自然の詩か、町の詩か、経験の詩か、思い出の詩か。)
<ul style="list-style-type: none"> ・本文はどのような意味の区分に細分化されるか。(例：物語に構成があるか。始まり、展開、終わりという構成があるか。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文はどのような意味の区分に細分化されるか。(例：全体の構成はあるか。話している割合はどのくらいか。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の意味はどのように細分化されるか。詩の構成はどのようになっているか。(例：最初の連と最後の連に繰り返しがあるか。)
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の内面の過程について、語り手は何を伝えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小道具、姿勢、ジェスチャーは、登場人物や状況の何を語っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩のタイトルと詩の本文との関係は何か。
<ul style="list-style-type: none"> ・本から抜粋した場合、その抜粋は大きな文脈の中でどのように位置づけられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本から抜粋した場合、その抜粋は大きな文脈の中でどのように位置づけられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その詩は出版物や由来など、どのような文脈で位置づけられるか。(例：季節やテーマの循環の一部か、誰かのための詩か。)

(STARK2020 日本語訳は脇田)

表4 文学作品の種類ごとの「形式面」に関する問い

叙事的文章 (物語、小説)	演劇的文章 (戯曲)	叙情的文章 (詩)
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような語り手なのか(例：一人称による語り手、個人による語り手、著者による語り手)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の登場人物がどのレベルの言語を使っているか(例：口語、専門用語、下品な言葉)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩はどのように形式的に構成されているか(例：連、押韻構成、詩の終止形、韻律)。
<ul style="list-style-type: none"> ・視点を変えたり、独白したり、体験談や情景描写など、特別な語りの工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脇で話す、壁を見る、使者の報告など、特別な演劇上の工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に節の繰り返しや特別な叙情的な仕掛けがあるか。
<ul style="list-style-type: none"> ・物語は時系列で語られているか、他の原則(回想、伏線)に従っているか。語りは時間より遅く進むか、速く進むか、時間通りに進むか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章は散文で書かれているか。詩で書かれているか。韻を踏んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使われている言葉にはどのような意味合いがあるか。言葉の選択によってどのように連想するか。
<ul style="list-style-type: none"> ・本文はどのような構文上の特徴があるか(例：一文が長い、短い)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフの構文上の特徴は何か(例：一文が長い、短い)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩にはどのような構文上の特徴があるか。文の構造と詩の構造の関係はどうか(例：一つの部分で終わるか、次のパートに移るか)。
<ul style="list-style-type: none"> ・作者はどのような文体の工夫をしているか(例：イメージ、比喩、メタファー、アンチテーゼ、クライマックス、否定、修辭的な質問)。どの工夫が優位か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者はどのような文体の工夫をしているか(例：イメージ、比喩、メタファー、アンチテーゼ、クライマックス、否定、修辭的な質問)。どの工夫が優位か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者はどのような文体の工夫をしているか(例：イメージ、比喩、メタファー、アンチテーゼ、クライマックス、否定、修辭的な質問)。どの工夫が優位か。
<ul style="list-style-type: none"> ・物語に言語・修辭学的な形式はどのような効果をもたらすか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語・修辭学的な形式はどのような効果をもたらすか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形式的・言語的・修辭的な形式はどのような効果をもたらすか。

(STARK2020 日本語訳は脇田)

上記 1. ～5. には、「物語・小説、戯曲、詩」の三つの文学ジャンルのそれぞれにおいて、内容面と形式面から様々な問いを提示している。授業の中で文学作品を読む際に、受験者は日常的にこうした問いに答えるトレーニングがなされていることがうかがえる。

5. ドイツ語基礎コース 2020 年「問題 3」概要

以下では、2020 年「問題 3」について説明する。この問題の種類は「I a 文学作品の分析とライティング課題」⁽²⁾である。試験は 100 点満点で、内容 72 点、言語表現 28 点の配点であるが、配点についての詳しい説明は記されていない。

5.1 設問と問題文の要約

2020 年「問題 3」では、二つの設問に対して、それぞれ論述する。解答すべき論述の語数は示されていない。設問 1 は「この家と主人公の関係について、そして、小説で書かれている範囲内で理解できる登場人物の特徴や態度について、分析しなさい。」(内容 36 点) という問題である。設問 2 は「(最終学年の課外時間に読むことが推奨されている) 課題図書『主人公と小説の主人公』について、それぞれの家との付き合い方や態度を比較しなさい。二つの小説における家の意味や価値観を説明しなさい。」(内容 36 点) という問題である。なお、試験会場には課題図書とドイツ語の辞書が置かれてあり、受験者は試験中に閲覧可能であるという。

問題文の小説は、アルノ・ガイガーの『元気です』の冒頭部分(ドイツ語 674 語、日本語訳で 1600 字程度)である。以下に、内容を要約する。2001 年、ガイガーの小説の主人公のフィーリップ(30 代)は、昨年亡くなった祖母から、ウィーンにある古い屋敷を相続した。彼は約 20 年ぶりに訪れた屋敷の中を点検し、住めるように掃除をしていた。屋根裏部屋の窓のガラスが割れていたため、鳩が何十羽も住みつき、その床は鳩の汚物で覆われていた。恋人のヨハンナがやってきて、階段の手すりのところにある目立った大砲の玉について質問するが、彼はその由来について知らないと答える。フィーリップは子どもの頃、1970 年代に母親が亡くなった時に、2 か月ほど、妹と一緒にこの屋敷に住んだことがあった。ヨハンナが居間の掛け時計はまだ動くのかと尋ねた。フィーリップは時計の鍵の場所について、記憶を辿れば思い出せそうだったが、思い出そうとせず、わからないと答えた。

5.2 設問 1 の解答のヒントと解答例

STARK (2020) には、解答のためのヒントおよび解答例(設問 1 はドイツ語で 1365 語、日本語訳で 3500 字程度)が挙げられている。設問 1 の「分析する」ことは、内容、物語の技巧、言語表現の三つの観点からどのように描かれているかを解釈することを意味しているという。この設問では、家と主人公の表現やその対応に注目し、主人公の性格や態度からわかることを結論づける必要がある。

解答例の構成(図 1 の右列)は次の通りである。〈序論〉①小説の基本情報、〈本論〉②小説の特徴(物語の技巧)、③節ごとの概要、④第 1 節テキスト解釈、⑤第 2 節テキスト解釈、⑥第 3 節テキスト解釈、⑦語り手の視点(物語の技巧)、⑧主人公の性格のまとめ、〈結論〉⑨主人公の態度に関する推論、である。解答例の一部を図 1 に示す。

<p>「所有権の義務化」とは、物を所有することで責任が重くなることを指摘した法原則である。アルノ・ガイガーが2005年に発表した小説『元気です』の主人公フィーリップも、祖母からウィーンの屋敷を相続したことで、こうした責任に直面する。小説の冒頭では、彼の家に対する第一印象、記憶が語られている。家族の歴史を彼は負担に感じている。</p> <p>ガイガーの小説は、あたかも日記のように特定の日付(1行目)から始まる。しかし、ここでは彼の考えや経験を語る一人称の語り手はおらず、月曜日という一日が、フィーリップの視点から個人的に大きく描かれている。この日付はこの小説が年代記のようにレイアウトされていることを示唆している。</p> <p>抜粋は、三つの物語部分に分けられる。第1節では、フィーリップが少し前に相続した家の鍵がかかった屋根裏部屋に近づいた時のことを思い返している(1～17行目)のに対し、第2節では、フィーリップの恋人ヨハンナが到着し、屋敷の見学が始まる(18～50行目)という物語の現在の出来事が描かれている。最終節では、家の中にある振り子時計が、フィーリップの亡き祖父母の記憶を呼び覚ます(51～61行目)。</p> <p>フィーリップは「屋敷の外の階段」(26行目)に座り、「キーキー(動物の鳴き声)」(5行目)という声を聞いて屋根裏部屋に入ろうとしたことを回想し、自分のしたことを再現している。(後略)</p> <p>(第5段落 略) (第6段落 略)</p> <p>第1節も最終節も、主にフィーリップの視点で描かれている。登場人物の行動はほとんど中立的に描写され、台詞もコメントもなく、紹介されている。しかし、最終節には、フィーリップがどう感じていたかわかる箇所がある。例えば、家具が昼間の光の中で「少し膨らんでいる」と彼が想像した時(47行目)などである。彼には亡くなった祖父母の家具が独自の生命を育んでいるかのように思えたのだ。屋根裏部屋の老朽化した状態を思い切った言葉で表現したり、病気を連想させたりと、その想像力がすでに発揮されている。</p> <p>2001年、フィーリップはウィーンに住む30代の男性である。彼は明らかに祖父母に関心がなく、彼らの莫大な財産についてもほとんど知らない。しかし、彼の興味のなさは、冷え切った家族関係によるものだけではなく、ヨハンナの非難が示すように、彼の一般的な特徴でもあるようだ(42行目)。(後略)</p> <p>フィーリップの受け継いだ屋敷には祖父母にまつわる思い出が詰まっているが、それは否定的なもので、距離があることを物語っている。つまり、鍵のかかった屋根裏部屋は、フィーリップが思い出したくない家族の不愉快な過去の象徴と解釈できる。彼が屋根裏部屋のドアを再び閉めた時、彼は自分の記憶と向き合いたくないと思っていたのだ。</p>	<p><序論> ①小説の基本情報</p> <p><本論> ②小説の特徴 (物語の技巧)</p> <p>③節ごとの概要</p> <p>④第1節テキスト解釈</p> <p>⑤第2節テキスト解釈 ⑥第3節テキスト解釈 ⑦語り手の視点 (物語の技巧)</p> <p>⑧主人公の性格のまとめ</p> <p><結論> ⑨主人公の態度に関する推論</p>
---	--

(STARK2020 日本語訳は脇田)

図 1 2020 年「問題 3」の「設問 1」に関する解答例(一部)

5.3 設問 2 の解答のヒントと解答例

設問 2 の解答のためのヒントおよび解答例(設問 2 はドイツ語で 841 語、日本語訳で 2200 字程度)について述べる。設問 2 の「比較する」では、(1)二人の男性主人公の家との接し方や態度(例えば、家をどのようにして入手したか、家はどのように描かれているか、財産を大切にしているかなど)と、(2)両方のテキストにおける家の役割について言及する必要がある。

解答例の構成(図 2 の右列)は次の通りである。<序論>①二人の男性主人公が家を所有する共通点、<本論>フィーリップとシュタイン(『夏の家、その後』の主人公)の比較、②『夏の家、その後』の要旨、③家の取得方法と状態、④家に対する感情、⑤家と家族の繋がり(人生設計における家の役割)、⑥二人の振る舞い、⑦思いを象徴する家、<結論>⑧二人にとって家は対照的な時間軸、である。解答例の一部を図 2 に示す。

<p>若い男性が、自分が所有者になったばかりの家を恋人にプレゼントする。このシナリオは、アルノ・ガイガーの小説の冒頭部分だけでなく、ユードイト・ヘルマンが1998年に発表した物語『夏の家、その後』にも見られる。しかし、このプロット要素は、次の比較でわかるように全く異なる展開をしている。どちらの作品でも、主人公の男性が家をどう扱うかで、それぞれの考え方が見えてくる。</p> <p>ヘルマンの物語では家は中心的な役割を果たしている。タクシー運転手のシュタインにとって、家は人生のテーマである。(中略)シュタインは住居を持たず、ホームレスのように生活をしている。2年前彼女と交際し、田舎に家を買いたいという夢を持った。</p> <p>シュタインはカニッツ村で、湖に面した広大な敷地に建つ理想の家を見つたと確信し、8万マルクで購入した。窓は割れ、ドアは開かず、落書きがあり、廃墟のようになっていても彼は気にしない。(中略)一方、ガイガーの小説の主人公フィーリップは、努力せずに屋敷を手に入れる。祖母から相続したこの大邸宅は、屋根裏の窓から鳩が入り出すなど、放置された形跡があるが、ウィーンという場所柄、家の物質的な価値は全く異なる。</p> <p>二人の人物はそれぞれのガールフレンドを連れて家の中を歩く。この方法は二人の家に対する感情が反対であることを示している。(中略)シュタインは彼女を迎えに来た時、誇らしげで、まるで体に電気が走ったかのようなだった。(中略)しかし、その電気の火種は彼女には広がろうとしない。一方、アルノ・ガイガーの小説では、彼女のヨハンナが家に興味を示し、建築物の特徴について質問する。しかし、フィーリップは淡々としていて、興味がないように見える。彼の考えをしてみると、子供の頃の否定的な記憶を祖父母の別荘と結びつけていることがわかる。(後略)</p> <p>家はフィーリップにとって家族の歴史の一部である。(中略)一方、シュタインにとって、家は新しい土地で自分の憧れを実現するものだった。(後略)</p> <p>タクシー運転手のシュタインは、定住するという計画のため、活動的になり、目標を達成することで自分の中のエネルギーを解放し、荒れ果てた家を修繕改装することを決意する。(中略)しかし、シュタインと違って、フィーリップには行動力がない。シュタインにとって、家の修善は心のプロジェクトだが、フィーリップにとってはそうではない。</p> <p>(第7段落 略)</p> <p>『元気です』では、屋敷の所有権の取得が冒頭に描かれ、その後、昔のことをフラッシュバックしている。一方、『夏の家、その後』は家という遺産の破壊とシュタインの失踪で終わる。フィーリップにとって、屋敷は重荷であり、抑圧された記憶に満ちた死者の領域のようだ。一方、シュタインにとって、家はパートナーとの幸せな将来の生活を約束するものだが、その約束は果たされなかった。</p>	<p><序論> ①主人公二人が家を所有する共通点</p> <p><本論>二人の比較 ②『夏の家、その後』要旨</p> <p>③家の取得方法と家の状態</p> <p>④家に対する感情</p> <p>⑤家と家族の繋がり、人生設計での役割</p> <p>⑥二人の振る舞い</p> <p>⑦思いを象徴する家</p> <p><結論> ⑧二人にとって、家は対照的な時間軸</p>
---	---

(STARK2020 日本語訳は脇田)

図 2 2020 年「問題 3」の「設問 2」に関する解答例 (一部)

6. ドイツ語基礎コースで測られる言語能力

ドイツ語のアビトゥア試験基礎コースでは、日本の国語科目の大学入試と異なり、4 時間もの長時間にわたる論述試験が実施されている。そして、試験には選択肢で解答する問題はない。二つの設問に対する論述の解答例を見る限り、ドイツ語 2,200 語程度 (日本語翻訳で 5,700 字程度) に達している。紙幅の都合上、解答例の全文を載せることはできないが、これだけ長い文章を書くために、受験者は、日頃から文章を批判的に読み、そして、文章を引用し、自分の言葉を使って説明し、自分の考えを深める言語トレーニングが行われていると思われる。

ドイツ語のアビトゥア試験では、理解力や表現力に関して、三つの異なるレベルが要求されている。それは「知識の再現 (レベル 1)」、「知識の編集と熟考 (レベル 2)」、「問題解決と評価 (レベル 3)」の三つのレベルである。それぞれのレベルの「言語操作」(ドイツ語では“Operatoren”と呼ばれているが、これに該当する日本語の用語は管見の限り、ないと思われる) が STARK (2020) に示されている。

2020年の「問題3」設問1は「分析する」という「言語操作」が出題された。「分析する」は「知識の再現(レベル1)」から「問題解決と評価(レベル3)」のどのレベルでも使える「言語操作」で、文学作品であれば「文章の構成、技巧、意図を考慮した上での、文章の解釈を行う。また、統語的、意味的、文体的、修辭的な要素と文章全体に対する機能を理解する」ことが該当する。例えば、図1の第7段落において、⑦「語り手の視点(物語の技巧)」として次のように述べている。

第1節も最終節も、主にフィーリップの視点で描かれている。登場人物の行動はほとんど中立的に描写され、台詞もコメントもなく、紹介されている。しかし、最終節には、フィーリップがどう感じていたかわかる箇所がある。例えば、家具が昼間の光の中で「少し膨らんでいる」と彼が想像した時(47行目)などである。彼には亡くなった祖父母の家具が独自の生命を育んでいるかのように思えたのだ。

このような表現は、事実に関する文章を分析する時と同じように、本文の具体的な表現などをどのように解釈し、分析したのかを明示している。

そして、2020年の「問題3」の設問2では「比較する」という「言語操作」が出題されている。「比較する」は「知識の編集と熟考(レベル2)」に該当し、「基準に基づいて比較、関連づけ、分析し、類似性、相違性、部分的同一性、逸脱性、対照性を識別する」ことを指す。例えば、図2の第3段落において、二人の男性の③「家の取得方法と家の状態」について、次のように対比している。

シュタインはカニッツ村で、湖に面した広大な敷地に建つ理想の家を見つけたと確信し、8万マルクで購入した。窓は割れ、ドアは開かず、落書きがあり、廃墟のようになっていても彼は気にしない。(中略)一方、ガイガーの小説の主人公フィーリップは、努力せずに屋敷を手に入れる。祖母から相続したこの大邸宅は、屋根裏の窓から鳩が出入りするなど、放置された形跡があるが、ウィーンという場所柄、物質的な価値は全く異なる。

それぞれの家の取得方法、家の場所、家の状態を対比させながら、最終段落の二人の家に対する価値観に導いている。論述の中に、受験者の「家」に対する考えは書かないが、これらの論述の過程を経ることで、受験者は現在や将来の「家」との関わり、「家」に対する価値観について考えることになり、「家」のテーマについて自分自身のことに引き付けて捉えることに繋がっていると思われる。

また、「分析する」と「比較する」の「言語操作」は、「問題3」以外の問題(表2)でも頻出しており、「分析する」と「比較する」は重要な要素であることがうかがえる。

7. おわりに

ドイツで教育を受けた学生が日本で学ぶ場合、日本語教員は教育的接続のために以下の点について知っておく必要がある。大学入学前のアビトゥア試験において、受験者は第一言語による小説を「分析」し、それを解釈し、さらに「比較」することが求められている。

NRW 州の基礎コースでは、3 時間半の試験時間に、ドイツ語で 2,200 語程度（日本語翻訳で 5,700 字程度）の「評論」を書くことが期待されている。こうした点を日本語のアカデミック・ライティングの教室活動に活かしていくことが望まれる。

今回、分析の対象とした試験問題は文学作品であったが、今後は文学作品以外の事実に関する文章の試験問題の解答例と比較し、両者にどのような共通点や相違点があるのか、検討したい。さらに、ドイツの第一言語教育の「言語操作」の種類やそれらの内容を調査し、日本語教育のアカデミック・ライティングにどのように導入できるかを検討することが望まれる。

（脇田里子わきたりこ・同志社大学）

（鎌田美千子かまだみちこ・東京大学）

注

1. 本報告でドイツの第一言語教育を取り上げたのは、同志社大学にドイツの大学の日本研究センターがあること、ドイツ語圏の交換留学生が多いことによる。
2. 2020 年「問題 3」の二つ目の問いは他の文学作品との比較を行うため、試験の種類は「I b 文学作品の比較」と思われるが、試験の問題用紙には「I a 文学作品の分析とライティング課題」と書かれている。

謝辞

本研究は JSPS 科研費（課題番号 19H01269）の助成を受けて行った研究の一部である。ドイツ語の日本語翻訳に関して同志社大学嘱託講師 Angela Niehaus 氏に、また、ドイツのギムナジウムの教育に関して日本語教員の松尾馨氏に、助言と貴重な意見をいただき、ここに深謝の意を表する。

参考文献

- ドイツ連邦共和国大使館・総領事館ウェブサイト <<https://japan.diplo.de/>>
（2022 年 5 月 5 日閲覧）
- 文部科学省（2016）『諸外国の初等中等教育』明石書店
- 脇田里子（2021）「ドイツのアビトゥア試験英語科目における「言語仲介」問題分析—日本語教育での「言語仲介」導入のために—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』13, 45-53.
- STARK(2020) *2021 Abitur Gymnasium/Gesamtschule NRW - Deutsch GK*, Stark Verlag
（STARK（2020）『2021 年ギムナジウム/統合制学校 アビトゥア試験 NRW 州 —ドイツ語基礎コース』Stark 社）